

2019年度 札幌市立大学大学院デザイン研究科「地域プロジェクト演習」公開発表会プログラム

2019年9月10日（火） 14：00～16：15
まこまないキャンパス まちの講堂

- 1 開会にあたって デザイン研究科長 石井雅博
 2 各グループの発表
 3 閉会にあたって デザイン研究科教務・学生支援委員長 齊藤雅也
 司会：デザイン学部講師 金秀敬

【発表：16分、質疑応答：8分、入換1分、計25分】

予定時刻	タイトル／発表概要		グループ構成員
14:05 ） 14:30	【タイトル】	厚真町プロジェクト～北海道胆振東部地震の被災状況を受けた慰霊施設の検討～	工藤 康央 城市 聖也 張 露月 原 大介 樂 焜輝 劉 詩芸
	【発表概要】	今回のプロジェクトでは札幌市立大学と厚真町の連携による「厚真町プロジェクト」としてこれまで行ってきた古民家の調査等とは異なり、北海道胆振東部地震の被災状況を受けた慰霊施設の検討、提案を行う。2018年9月6日に発生した「北海道胆振東部地震」により、震源に近い厚真町では住宅の倒壊や土砂崩れで36人もの犠牲者を出す甚大な被害を受けた。被害の大きかった厚真町北部の山間地区では、現在も広範囲にわたり崩落した山肌が表しとなっている。土砂崩れ跡の一部では擁壁工事が進行しているが、無機質なコンクリートの斜面が見る人に大きな圧迫感を与えることが危惧される。本プロジェクトでは震災による犠牲者が特に多い厚真町吉野地区を対象地として、被災した方々への慰霊と今後の自然災害に対する啓発の意味を込めた慰霊施設の計画と、住民の心理的負担を軽減するための擁壁デザインの提案を行なう。	
14:30 ） 14:55	【タイトル】	赤平市「やすらい通り」におけるランチマップのデザイン提案	本田 友希 養島 福子 山本 麗
	【発表概要】	当プロジェクトは、赤平市赤平駅前に位置する商店街「やすらい通り」のランチマップのデザイン提案を目的とする。赤平市、NPO法人炭鉱の記憶推進事業団と札幌市立大学が連携して進めるプロジェクトである。現地調査により、赤平市の今後の展望として、日本遺産に認定された炭鉱遺産から、赤平のまちや商店街に人が流れるようにしたいということがわかった。市の現在までの取り組みでは、地域おこし協力隊や青年会議所から複数赤平市の飲食店マップが出ている。以下は、これまでの取り組みから得られた課題と新ランチマップへの要望である。①現在の赤平飲食店マップでは昼と夜の店が纏めて掲載されており、観光客へ説明が難しい②昼と夜を分けた赤平の飲食店情報誌があるが、全体の位置関係がマップ化されていない③ランチマップを通して店主の人柄を伝えたい④地域外からの新たな視点を盛り込みたい、以上の4項目を軸に新たなランチマップのデザインを行った。	
14:55 ） 15:20	【タイトル】	水力発電所土木設備巡視点検支援システムに関するインターフェースの改善案の提案と評価実験	貴島 英恵 張 宇涵 姚 淳禹
	【発表概要】	本演習では、北海道恵庭市で企業向けの設測機器や制御システムの設計・製造等を手掛ける株式会社ハイテックシステム（HTS）が提供する水力発電所土木設備巡視点検システムに関するインターフェースを提案した。HTSが提供した水力発電所土木設備巡視点検システムに関して、統一性、使いやすさや一貫したデザイン方針を確立していないという課題を抱えていた。そのため、本演習では、「統一性の向上、使いやすさの向上、また初心者でも簡単に使える」という目的を立てて、同社が提供する水力発電所土木設備巡視点検システムの改善案の提案を行った。また、システムのモデルを作り、提案したインターフェースと既存するインターフェースの画面を比較し、提案物の有効性を検証するため、アンケートで検証実験を行った。	
15:20 ） 15:45	【タイトル】	青少年科学館における全天周サイエンス映像の制作	吉田 香織
	【発表概要】	青少年科学館内のプラネタリウム施設を活用する全天周映像コンテンツの制作を行った。全天周映像を制作するにあたり、対象や映像の方向性を定めるため、科学館との打ち合わせを行った。映像内容のモチーフを、物理、化学、生物、地学と定め、原子のミクロな世界から宇宙のマクロな世界までを描くことを計画した。制作準備として全天周映像用の絵コンテや作品のビジュアルイメージを作成し、映像イメージの共有を行いつつ制作を進めた。 立体的な映像表現のため、3DCGによる制作を行った。全天周映像ならではの演出や、注意すべき演出について、国際的な全天周映像作家である馬場ふさこ氏にレクチャーを受けた。全天周映像の確認にはVRヘッドセットを用いた。バーチャル空間にプラネタリウム施設上映を擬似的に再現し、映像表現として適切か、生理的な問題が発生しないか等を確認し、修正を行った。	
15:45 ） 16:10	【タイトル】	石狩湾新港における物流自動運転の応用場面を探る —自動運転技術を活用してエリア内の共同配送について提案—	劉 勤舟
	【発表概要】	本演習では、小樽市と石狩市にまたがる石狩湾新港の物流業界でドライバー不足、ドライバー長時間のムダな荷待ちが常態化に伴う配送の効率低下などの要因となる物流問題に対し、物流配送の効率向上とドライバー不足の解消のため、株式会社エースの石狩第3物流センターを活用した実現できるような自動運転車両を介し、二つのパターンを考案した。①実験エリア外への貨物を自動運転車両で既存倉庫に取りまとめる。輸送先によって、ドライバーがエリア外に集約輸送。②実験エリア内への貨物を既存倉庫へ輸送した後、自動運転車両で各会社に配送する。その仕組みの実現方法・可能性・拡張性を検討した。	
			指導教員 羽深久夫 教授
			指導教員 上遠野敏 教授
			指導教員 若林尚樹 教授 金秀敬 講師
			指導教員 藤木淳 准教授 松永康佑 講師
			指導教員 石井雅博 教授